



# 外国語科 Teaching Basic Flow

～基本的な授業の流れ(言語活動中心の指導)～

中学校

## 1 あいさつ&Warm-up

- あいさつや英語での簡単なやりとりを通して、英語学習への意識を高める。



## 2 ① 口頭導入 (Oral Introduction)

- 文が使われる適切な場面や状況を設定する。
- 生徒にとって身近な題材を取り上げる。
- 生徒と英語でやりとり (interaction) をしながら導入する。
- 既習事項と新出事項を対比させながら導入する。

推測する

気付く

## 2 ② 確認

- 文の機能や意味について確認する。
- 「ねらい」は適切なタイミングで提示する。

分かる

## 2 ③ 練習 (Drill)

- 視覚情報を与えながら、新出文法の意味や働きを理解させる。
- 繰り返し活動を設定し、活動量を確保する。
- 説明や板書が必要な場合は簡潔に行う。

慣れる

## 2 ④ 言語活動 (Communication Activities)

- デモンストレーションを行い、活動のしかたを共有する。
- 活動の場面や状況、目的を意識したコミュニケーション活動を設定する。
- 活動の前に、十分な口頭練習を行う。
- 4技能(5領域)の関連を意識する。
- 見本となるペアなどに発表させ、クラスで共有する。

試す、使う

## 3 まとめ&振り返り (Reflection and Feedback)

- 基本文や基本表現をノートに書くなど、学習したことについてのまとめをする。
- 本時のねらいを基に振り返りをする。

### ☆授業づくりの視点☆

- 聞きたい、話したいという意欲を高めるための工夫はあるか。
- 一人一人が思考したり、考えを表現したりする場面はあるか。
- 英語を聞く・話す時間は十分に確保されているか。
- 場面設定や状況、目的、相手意識をもったコミュニケーション活動が設定されているか。
- 前時とのつながりやステップの踏んだ活動が設定されているか。

H30. 下野市教育委員会 学校教育課



### 下野市 英語教育の目標

国際社会で活躍できる  
子どもの育成



### 目指す子ども像

- ・自分の考えをもち、積極的に英語でコミュニケーションを図ることができる子ども
- ・互いの立場を尊重し、思いやりをもって人と接することができる子ども
- ・多様な価値観や文化をもった人々と関わり合う中で、主体的に自らを発信できる子ども

